

佳作

あの日、星と描いた^{えが}夢

宮城県塩竈市立第二中学校

3年 八木 愛子

私は将来、絵を描く仕事をしたいです。なぜなら絵には、人を元気にしたり、喜ばせたりする「力」があるからです。しかし、私は最近自分のことや自分が描く絵に自信がなくなっていました。理由は、中学3年生になって絵を描くことが少なくなったからです。入っていた美術部を引退したり、テストや受験のことで精神的に追い込まれたりして、思うように絵を描けなかったり楽しめなかったりしました。

しかし、家族とキャンプに行ったことで絵に対しての思いが変わりました。夜に手持ち花火で遊んだ後、ふと空を見上げたら満天の星が空いっぱいに広がっていました。私は最近絵を描いても思うように描けなくて、もう描きたくないと思っていました。しかし、生まれて初めて見た、たくさんのきれいな星を見て「絶対に絵で描きたい」と思いました。星空を写真で撮ろうとしましたが、携帯の画質では写らないことが分かり、「写真では残せないから絵で描いて残しなさい」と星に言われたように感じました。絵で描けばいつまでも残ります。私の中で絵のよさが星のようにキラキラとよみがえったようでした。さらに、長いすに寝そべりながら、「将来は絵を描いていたい」と家族と話しているときでした。星が動いたかと思うと、流れ星が1本の長い筋を描いていたのです。満天の星を見ただけで感動したのに、将来の夢を話している途中で人生で初めての流れ星を見たということは、もう偶然ではなく奇跡なのだと思います。そしてこの感動やうれしさを絵で伝えたいというあふれ出るやる気のエネルギーがよみがえってきました。私は満天の輝く星空と九つも流れた流れ星のおかげで改めて自分は将来絵を描いていきたいと思いました。そして私はあの夜、星空や流れ星を見て感動した思いをそのまま絵で伝えたいと強く思いました。しかし、自分が感じたことを相手に絵で伝えるのは簡単なことではないと思います。だから私の目標は、感動したことを絵で表現して、見た人を元気にしたり、喜ばせたりするような絵を描くことです。

そのために私が今チャレンジしていることは、どうやったら自分の感動を絵で表現できるかを考えたり、描いてみたりすることです。私が感動した星空と流れ星をただ普通に描くと、どこにでもあるありふれた普通の絵のように見えてしまいそうです。だから、どのように描けば人の心をつかめるか、見た人が

「絵の中に吸い込まれそうだった」と思える絵を描くにはどうしたらよいかなどを考えていきたいです。さらに、自分が納得のいくような、見る人が少しでも感動できるような絵を描けるようになりたいです。自分が感じたことを相手に絵だけで伝えるのは、とても難しいことなので描けるようになるかは分かりませんが、私には「感動」を何かで表現したいと思うエネルギーがたくさんあると思います。だから好きな絵で表現できたら良いなと思います。

しかし、これから自分の得意なことや好きなことが変わったり、増えていたりするかもしれません。今は絵が好きで、絵の良さが分かっていますが、これから見つかるかもしれない好きなことや得意なことについての良さを理解して、仕事にしたいと思うかもしれません。だから、今チャレンジすべきことは絵の研究のほかに、いろんなことに挑戦することなのだと思います。これからいろんなきっかけがあって、何かを夢中で取り組むこともあるかもしれないので、そのきっかけを探していくことが大切だと思います。しかし、どんな職業や道を選んでも、人に「感動を伝えたい」と思う自分自身のエネルギーは変わらないと思います。だから、その思いをずっと大切にしていって、いろんなことにチャレンジしたいと思います。しかし、新しいことにチャレンジすることは簡単なことではなく、勇気が必要なことです。しかし、新しい自分の一面を見つけるためにいろんなことに挑戦し、得意なことや好きなことを見つけるのは自分にとって大切なことだと思いました。

私の「感動を伝えたい」というエネルギーは、絵を描きたいという思いにつながりました。絵は私にとって欠かせない存在です。だから、いろんな特技を見つけても、絵を描くことはこれからも大切にしていきたいです。